授業の玉手箱

翻訳：日本語と英語の言語文化の理解

中井　弘一

コンピュータのウエブ翻訳アプリで次の英文の和訳を試した。
His failure to fulfill the promise made the voters suspicious.
グーグル：　約束を果たすために彼の失敗は有権者が疑わしいた。
エキサイト：約束を果たすことの彼の失敗は、有権者を疑い深くした。
Yahoo：約束を果たすことに関する彼の怠慢は、有権者を疑わしくしました。

という結果であった。いわゆる「無生物主語構文」の文である。これには日本語の発想と英語の発想との大きな違いがある。「因果関係」を表現する場合、英語は「原因」を「主語」で、「結果」を「他動詞」と「目的語」で表し、「何が何をする」という一つの文でまとめる。しかしながら、日本語は、「原因」「結果」を二つの「節」で経過として表現する。「彼は公約を果たせなかったので、（その結果）有権者は疑いを抱いた」が自然な日本語の文章になる。原因・要因の明確性を重視する英語と、事の経過（流れ）を重視する日本語の文化的感覚の差異である。これは、英語を「自然な日本語」に翻訳する、日本語を「英語らしい英語」に翻訳する際には絶対不可欠な翻訳テクニックとなるが、文化の違いと捉えて学びたい。

また、和英翻訳するときには、日本語に囚われずその意味を言い換えて表現する方が易である。日本語の「いまいち」という表現は、

- 十分じゃない　　It's not good enough.
- まあいいけれど、もっと期待していた　　I think it is OK, but I expected more.
- もっとできると思うだけど　　You can do better than this.
- これが一番だとは言えない　　I cannot say it is the best.

（青木ゆか（2014）『ずるいえいご』日本経済新聞出版社）

"lack something" と言っても良いし、仮定法を使って、"Could be better." もある。「正解に近いが賞品の葉巻はあげられない」という俗語表現で、"close but no cigar" などもある。要は、文化として日英の表現を捉えていくことが生徒の興味を引くことにならないだろうか。

書籍紹介

『「日本人と英語」の社会学―なぜ英語教育論は誤解だらけなのか』

寺沢拓敬（著）、300 ページ、研究社（2015/1/17）、￥2,808

タイトルが異彩を放つ本書は、社会学的視点に基づいて日本における英語教育を分析し、「日本人と英語」に関わる数々の言説を計量分析に基づいて、ことごとく否定している。英語教育に直接的に関わる読者群にとっては衝撃的な、控えめに言っても違和感のある一冊である。膨大なデータの統計分析に基づいて批判されているのは、「日本人の英語力はアジアの中でも最低」「日本人の英語学習熱は非常に高い」「女性は英語に対して積極的で、その学習熱は特に高い」「現代の日本人にとって英語使用は不可欠になっている」「英語使用ニーズは年々増加している」「日本人にとって英語力は良い収入・よい仕事をえるための「武器」である」といった英語言説であり、本書ではこれらすべての言説は誤謬であると述べられている。

おそらく、我々にとって最も関心があるのは、社会の英語ニーズをめぐっての議論である。なぜなら、日本の英語教育は、2003 年のいわゆる「英語が使える日本人」育成のための行動計画以来、グローバル化の進展への対応のために日本人は世界的平均水準の英語力を目指すべきである、というように、国際化を根拠とした英語教育の充実を掲げてきたからである。折しも、2020 年の東京オリンピック開催をめがけて、新たな英語教育が策定されようとしている。この議論に対して本書では、日本においては「仕事と英語」の実態をきちんと把握することなく英語熱や英語ニーズが過大に見積もられてきたとし、その原因として、政府や産業界、語学ビジネスの利益や、外国語教育界における日本文化同質論（すべての日本人が英語を使えるようにならなければならない）の流布を指摘している。

統計データが示す英語言説の否定にはいささか抵抗感もあるが、本書の学術的示唆は客観的に受け止めたい。従来、英語教育研究は言語学、心理学、教育学といった学問体系や科学的と言われる言語習得論の中で論じられており、社会的ニーズの理解については極めてナイーブであったと言わざるを得ない。本書では英語教育を含む種々の言語現象を研究するクリティカル応用言語学や社会言語学など、社会科学的な分析を中心にした英語教育研究の必要性を説いているが、これらの研究が進展すれば、社会の中で英語教育を捉え直し、言説を超えた英語教育のあるべき姿を描くことができるかもしれない。

社会学的な英語教育論に接して、しかし、教育の現場では質的なものを見失ってはならないのではないかとも考えさせられる。

（東條　加寿子）

大阪女学院大学「教員免許状更新講習 1・2」平成 27 年度講習

http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate

各講習：中学校英語科教員・高等学校英語科教員　計 30 名

■講習1　平成 27 年8月3日（月）9：10 ～ 16：40

「発信型の英語コミュニケーション能力の育成」

- 効果的に発信する仕組みと工夫（ジャンル分析）
  東條 加寿子　大阪女学院大学 教授
- 効果的な英語プレゼンテーションを行うために
  中井 弘一　大阪女学院大学 教授

【ジャンル分析】発信の対象と目的を明確にし、次に、どのような表現パターンが用いられているかを分析する。第一部では、天気予報、新聞記事、広告文、メールなど、生徒たちにとって身近なジャンルを捉えて、効果的な発信の仕組みと工夫を考える。【効果的な英語プレゼンテーション】発信型のコミュニケーションとして効果的に英語プレゼンテーションを行うための基本的なスキルを紹介し、即興のプレゼンテーションを通して、英語授業でプレゼンテーションを取り入れるための工夫を考える。

■講習2　平成 27 年8月4日（火）9：10 ～ 16：40

「指導技術スキルアップ演習（英語）」

- 発音・音読指導
  夫 明美　大阪女学院短期大学 准教授
- 生きた音声素材の教材化の工夫
  東條 加寿子　大阪女学院大学 教授
- 学習補助教材作成の工夫
  中井 弘一　大阪女学院大学 教授

【発音・音読指導】授業テキストなどを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習を行い音読指導のヒントについて考える。【生きた音声素材の教材化の工夫】英語の歌、ニュースや演説、インタビューなどの英語音声素材を生徒のレベルに適した教材として作成する際に必要な観点や工夫を、教材化の演習を通して考える。【学習補助教材作成の工夫】ワークシートや学習補助教材を作成する在り方やその工夫を、教科書や実物素材などを使って教材作成するワークショップを通して考える。

■ 受講申し込み受付

平成 27 年 4 月 17 日（月）より 7 月 17 日（金）までに大阪女学院大学　教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。（申込方法）教員養成センターメールアドレス（ttc@wilmina.ac.jp）宛に、1）お名前（漢字・ふりがな）2）メールアドレス 3）ご連絡先電話番号 4）ご勤務先・所属等 5）希望講習を明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

○ 受講料　5,000 円（所定の口座へ振り込み）

編集後記

Open the windows and open the door
And let the fresh breezes blow in, blow in.
Jack Frost has gone to his home in the north
And all of a sudden it's Spring!.

新年度が始まった。「良き出会いは人生を決める」それを心に今年度も頑張ろう。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center
540-0004　大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号
Tel: 06-6761- 9371　Fax: 06-6761-9373
Homepage: http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc
e-mail: ttc@wilmina.ac.jp